

第9号

2004.7.20

# れんめい

発行 日本歯科技工士連盟  
東京都新宿区市谷左内町21-5

発行人 野島正美

編集 日本歯科技工士連盟

発行日 平成16年7月20日(火)

## 82,146票



▲500人の聴衆を前に歯科技工の大切さを訴える（和歌山市で）



大阪一の商店街を一件一件▶  
回り支援をお願いする

## 八万余名の支持に感謝 第20回参議院議員通常選挙結果を受けて

平成16年7月11日に行われた第20回参議院議員通常選挙で、立候補した中西しげあき候補は、82,146票を得たが、落選した。無念である。

しかし歯科技工を担う者たちが組織決議のもと、挑み、存在を公に示したことは歯科技工士の財産であった。主張を界内から界外へ！それ

ができたことを、汗をかいた者は知っている。今後、課題の検証が行われる。ここでは、歯科技工問題の社会化ができたことへの評価だけは忘れない。

残念だ。結果は残念だ。思いとして「価値がある」「わかってもらっている」と感じていたことも、社会へのアピールという点では、まだまだ足りなかった。歯科技工界の国政挑戦を通じ、結果として得た社会評価は低かった。我々の抱く思いと社会へのアピール成果というものとの差異を、組織として率直に認めなければならぬ。

この前提確認のうえで、この一年あまりの行動には忘れぬ事実がある。

第一に、歯科技工士の主張が社会の問題意識のテーブルに乗った。問題を公に晒した。北の街頭で、南の演説会で「入れ歯は皆さんの元気に役立っています」「医療専門職の総合力で安全と安定した医療が保たれています」と訴え、何万人がこれを耳にしたことだろう。この主張に必要な原資は、公費と浄財と決議予算が充てられた。社会課題は、現代ではマスコミが解決のきっかけをつけることが多い。その意味でも、歯科技工問題の社会への主張が具体的に明らか

## 論 説

になったことは、かつてこれほどはなかっただろう。

第二に、歯科技工士の内面に、社会化への質的転換が起きている。歯科技工の問題を同業以外の方々に語った。これにより「懇請」は主張に代わった。そこから学び感じたことは、思わぬ賛同者・協力者に意を強くしつつも、歯科技工士がこれまで如何に他者との繋がりが少なかったかを知ることでもあった。

この内面の社会化は、意義ある転換である。

歯科技工界は、今夏の結果から課題の検証をする。議会制民主主義の土俵で歯科技工士が闘ったということ。社会保障の中の重要な柱のひとつである医療。その医療のなかの歯科医療価値を強く発信したこと。そこに歯科技工を相対化させたこと——そのことの意義は、すべての平成に生きる歯科技工士が得たものである。

いただいた八万余名の支持を無に帰することなく、明日からの活動につなげた。

第20回参議院通常選挙比例代表選挙

政党等の名称 自由民主党

Table with 2 columns: 得票順位 (Rank), 名簿登載者名 (Candidate Name), 28 (Number of candidates). Lists candidates across various prefectures and their respective vote counts.

Table with 4 columns: 小計 (小計 (名簿登載者の得票総数) (a)), 政党等の得票総数 (b), 得票総数 (a+b). Shows total votes for candidates and parties, and the combined total.

Summary table with 7 columns: 政党名 (Party Name), 得票総数 (Total Votes), 政党名得票数 (Party Name Votes), 個人名得票数 (Individual Name Votes), 得票率 (%) (Vote Rate), 当選者数 (Number of Candidates). Lists major parties and their performance.

戦いを終えて

第20回参院選

日技連盟選対本部

本部長 平尾 豊

平成16年7月11日、日技連盟にとって活動の集大成ともいえる一つの結果が出た。

歯科技工士の抱える諸懸案解決のため、医療技術者の環境整備を図り国民の皆様様に安全で安定した医療を提供するため国政に挑戦した日本歯科技工士連盟は、会長中西しげあき氏を擁立し選挙戦に望んだものの、残念ながら当選という吉報を得ることはできなかった。

平成15年3月の連盟評議員会において歯科技工士国會議員候補者擁立を、同5月の臨時評議員会において自由民主党から中西会長の擁立を決定した後も、越えなければならぬハードルは無数にあった。

公認のための努力目標である党員獲得は、各県に職域支部を結成していただき達成することができた。しかし、それでもなお目に見えない障害があった。その障害も我々の熱意で取り除くことができた。後援会活動も、各県技連盟会長が中心となり懸命に努力していただいた。選挙戦に入ってから、ポスター貼り、選挙はがきへの協力、街頭演説等への動員、法定ビラの配布等、まさに寝食を忘れて会員諸兄が努力していただいた。その結果がこの八万余りの大切な大切な政策への賛意である。

選対本部長として会員皆様に対し衷心より御礼申し上げるとともに、至らぬ点は十分反省し、いただいた賛意を無に帰することなく次へ繋げていく所存である。

後援会支援への感謝を込めて

中西しげあき躍進の会

会長 齊木 好太郎

「一つの熱い熱い戦いは終わった。この歴史的な戦いに際しては、後援会会員をはじめとし、ご家族、ご親戚、友人、知人等々多くの皆様方からの温かい励ましとご理解、格別なる支援を頂きましたことに感謝申し上げますとともに、結果にしましては、後援会会長として不徳のいたすところとして猛省しているところです。

振り返れば、日技連盟の議決を受けての一年余の後援会活動、また、公示後の選対本部を中心とした選挙活動を通じて、我々医療技術者、歯科技工士の長きにわたる願いや熱い思いがこれほど結集できたことはなかったのではと感じています。各地で開催されたミニ集会、決起大会、出版記念会等、会場に参集された皆様方からの「中西候補」によせる期待とご支援、また、選挙活動での遊説では、各地での街頭演説への参加、法定ビラの配布等、時に参加させていただいた私自身胸が熱くなる思いで感慨無量になるとともに、会員諸氏を大変頼もしく「目的を同じにした仲間」を強く感じられた次第です。

今回の会員諸氏をはじめとする皆様方の活動は、決して無駄になることはなく、医療に携わる技術者、歯科技工士としての主張を社会に向けて胸を張って大いに発信できたのではないかと考えています。結果は結果として真摯に受け止めて精査して問題点を反省し、この貴重な経験を歴史的な大いなる財産として今後に生かしたいと存じます。